

能作など県内6社出品

スズ

漆器

和紙

上海に伝統工芸ショップ

コロナ後 訪日客照準

鋳物メーカーの能作（高岡市）をはじめ県内6社の伝統工芸品を取り扱うショップ「能作・富山」が23日、中国・上海の上海伊勢丹にオープンする。チェック経営コンサルタント（富山市湊入船町、山瀬孝社長、JEC）が運営を担う。海外販路開拓のほか、新型コロナウイルス収束後のインバウンド（訪日外国人客）誘致に力をつける狙いだ。

（相川有希美）

取り扱うのは能作、モメ
ンタムファクトリー・O r
（高岡市）、シマタニ
昇龍工房（同）、天野漆器
（同）、柴田漆器店（同）、
桂樹舎（富山市）のスズや



「能作・富山」のイメージ。右側は富山を紹介するパネルが設置された休憩スペース

和紙製品、漆器など。店舗は日本各地の工芸品や食品などを扱う5階に入る。面積は約24平方メートルで、フロア内では最も広いテナントとなる。初年度の目標売上高は約500万円。店舗横の休憩スペースには富山の魅力を紹介する大型パネルも設置する。

JECは2012年に上海の現地法人を設置した。上海伊勢丹の店舗では新たな企業の商品も受け付ける。北京や大連、蘇州への進出も視野に入れている。

山瀬社長は「工芸品を通して富山に興味を持ち、コロナ収束後に観光で訪れるというサイクルを生み出したい」と話した。

JECは同様の店舗を17年にタイ・バンコクへ、20年に台湾へそれぞれ出店している。バンコクは入居先の伊勢丹が今年8月に閉店したため、撤退した。